

しば子先生の

ミ

ニ

ミ

ニ

芝生教室



先生：高温の夏場に寒地型のクリーピングベントグラスがどうやって耐え忍ぶかわかったかしら？

生徒：はい、寒地型と言っても高温に耐える能力は十分に備わっていることがわかりました・・・

先生：そうね・・・重要なのは生育期である春の段階で十分に成長させて十分な貯蔵養分を貯えさせること・・・これによって夏場の高温で光合成による生産量が落ちて貯蔵養分で生育を助けることができるわ・・・それと葉の温度を下げさせるための十分な蒸散作用を継続させるためにやはり春から夏にかけて根を十分に育てて十分な根圏を作っておくこと・・・このためには根の成長に必要な土壌の空気層を確保すること・・・エアレーションできれいな砂を入れる・・・また春の期間に十分に養分を与えること・・・

生徒：なるほど・・・やはり夏の前の春の準備が最も重要なんですね・・・

先生：そういう事・・・夏対策だけではなく、健全で強い芝を作るためには『根』の成長が最も重要なんですね・・・

生徒：今まで何度も言われてきました・・・

先生：そう・・・夏場対策は特別な事ではなく、常日頃から考えなければいけない土壌の正しい化学性、物理性を維持し、それに正しい養分管理をすることが基本中の基本なのよ・・・その結果が夏場に正直に表れるのよ・・・

生徒：やはり基本が一番大事なんですね・・・

先生：そのとおりね・・・その上で夏場には重要なポイントもあるわ・・・

生徒：そこですね！・・・30℃を超える日に何をすればいいのでしょうか？

先生：前回説明した通り、ベントグラスは外気温の高温より土壌の高温の方がダメージが大きいという事ね・・・

生徒：はい、土壌温度が適正であれば外気温が高くてもどんどん成長していくことができます・・・

先生：そこがポイント・・・つまり土壌温度を上げないように管理することが必要なのよ・・・

生徒：それはそうでしょうけど・・・どうやったら土壌温度が上がらないようにできるんですか？

先生：一番大事なのは『土壌の空気の量を高く維持すること』

生徒：ええっ？空気ですか？水だと思っていました・・・

先生：あらあら困ったわね・・・きちんと土壌学を理解していればそんなこと言わないわよ・・・

生徒：でも夏場はどんどん土壌から水が蒸散して土壌の水が減ってしまうので足してあげないと・・・

先生：確かに夏場の土壌からの蒸散量は高くなるわ・・・でもいくら芝生が水を必要としていても、芝生が必要としている以上の水は必要ないのよ・・・

生徒：確かに植物のしおれ点は土壌水分8%でした・・・

先生：そうね・・・だから8%以上あればいいのよ・・・

生徒：でもそれじゃあぎりぎりだからたくさん水をあげていっぱいあった方がいいんじゃないでしょうか・・・人間だって水分補給しないと熱中症になるし・・・

先生：あらあら、ついに人間も水分補給するからとか言ってしまったわね・・・植物は動物じゃないのよ勘違いしないで・・・そういう人間感覚で無意味にたくさん水を撒くと芝生に取っては迷惑・・・その過剰な散水で芝生を枯らしてしまうのよ・・・よくある事ね・・・

生徒：えっ散水し過ぎで枯らしてしまうんですか？

先生：そう・・・暑中頑張ってる水を撒いて、その結果芝生がダメになっていく・・・水を撒けば撒くほど減っていくものは？

生徒：そうか！土壌の孔隙に水が飽和してしまうと土壌中の空気が無くなってしまいます・・・

先生：そのとおり・・・土壌の温度を上げないためには土壌の空気が必要・・・これには理由があるのよ・・・**水は空気の20倍も温度を伝える能力が高く、しかも一度温度の上昇した水はなかなか温度が下がらないの・・・**

生徒：なるほど、発砲スチロールが断熱材になるのは発砲スチロールの中の小さな隙間の中に空気がたくさん入っているからなのと同じ原理ですね・・・

先生：うまいこと言うわね・・・夏場の芝生表面は50℃を超えるわ・・・でも芝生自体のターフの層と土壌の空気層が断熱材になって、土壌の10センチ下は25℃ぐらいに維持されるわ・・・水が満水になった土壌は地表面の温度が地下にまで伝わってしかも温度が下がらない、同時に根の成長に必要な空気が無くなってしまふから根にとっては致命的になるわね・・・



しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp